第1章　香川県の自然環境と社会経済

１　自然環境

２　人口

３　経済

４　県民の意識

第1章　香川県の自然環境と社会経済

1　自然環境

古くから海上交通の要衝として発展してきた本県は、昭和9（1934）年に日本で初めて国立公園に指定された「瀬戸内海国立公園」の東部に位置し、四国の東北部にあります。

北は県花・県木のオリーブで知られる小豆島をはじめ、現代アートの聖地として世界的に有名な直島など、大小110余の島々が「世界の宝石」と称される瀬戸内海に浮かび、魅力ある風景を形作るとともに、静かな海面や白砂青松の浜、古い港町の家並みや島々の段々畑など、自然と人間の営みが一体となった郷土風景が他にはない特色となっています。

また、南には讃岐山脈が連なり、北に向かって開けた讃岐平野には、讃岐富士（飯野山）などに代表されるおむすび型の里山や、屋島に代表される溶岩台地が分布するなど、独特の景観を生み出しており、万葉集にも「玉藻よし讃岐の国は国柄か見れども飽かぬ」と歌われています。

河川はおおむね讃岐山脈に源を発し、北流して瀬戸内海に注いでいますが、流路延長が短く、また降水量が少なく、水資源に恵まれていないことから、県内には満濃池をはじめ、大小1万2千余のため池がつくられ、古くから県民の生活と密接に結びつくとともに、生物にとって大切な水辺の生息・生育環境を提供しています。

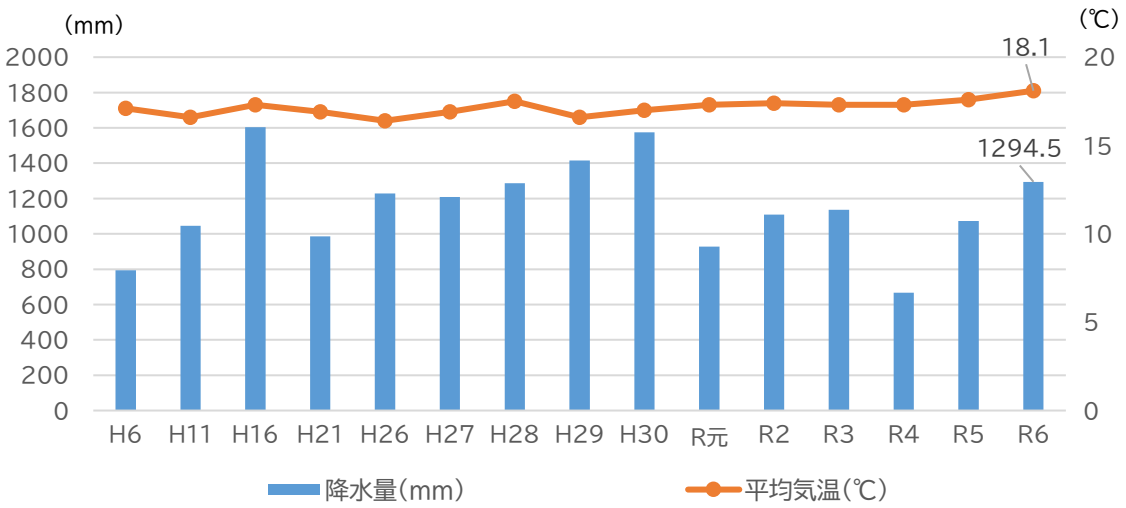
面積は全国で最も小さく（1,876.83平方キロメートル）、全国に占める面積の割合は0．5％ほどですが、可住地面積の比率は高く、人口密度は中四国で最も高くなっています。

気候は、年間を通じて比較的温暖であり、年間日照時間は全国上位にあります。また、地震・台風などの自然災害は比較的少なく、これに温暖な気候、充実した都市型インフラなどが加わり、他地域に比べて暮らしやすい地理的条件が強みとなっています。

平地と山地がおよそ相半ばしているなか、土地利用は、讃岐平野を中心に田畑やため池からなる農業地域が広がり、平野部の山々や讃岐山脈をはじめ、瀬戸内海に浮かぶ島々でも森林地域が形成されています。これらの緑や水辺に囲まれた県土は、交通手段の発達に伴う生活圏、行動圏の拡大により、自然的、社会的、経済的条件のいずれにおいても一体性が強く、全県的に高度な土地利用が行われています。

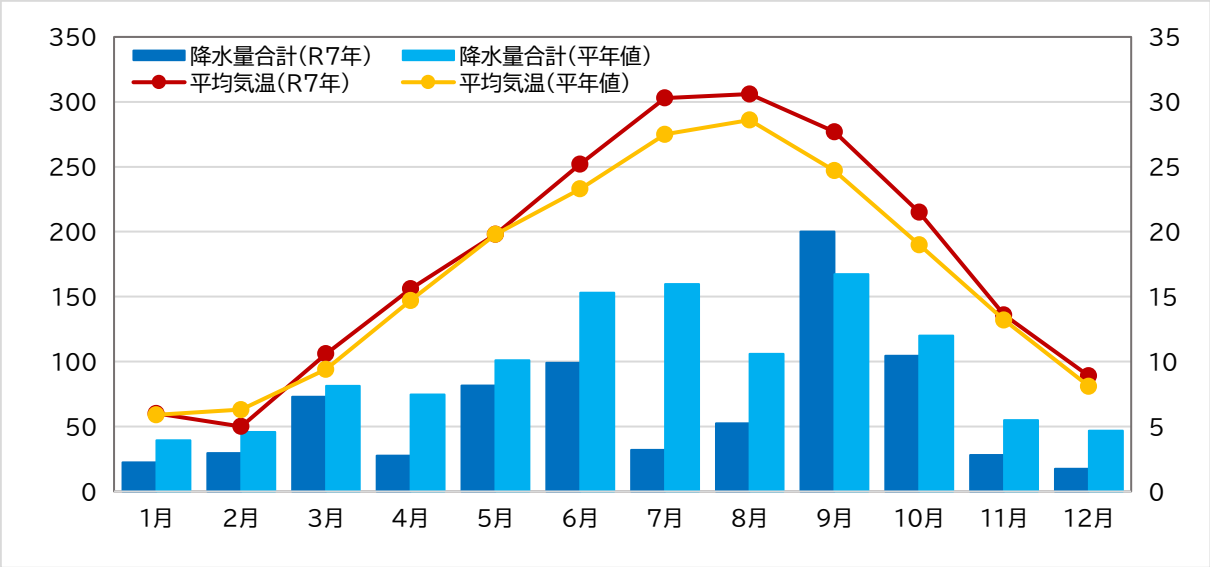
こうした豊かな自然環境は、人々にうるおいとやすらぎを与え、日々の暮らしを支える生活の基盤となるだけでなく、観光や産業などさまざまな分野において、本県経済の成長を支える貴重な財産となっています。

図1－1　年間降水量と年平均気温



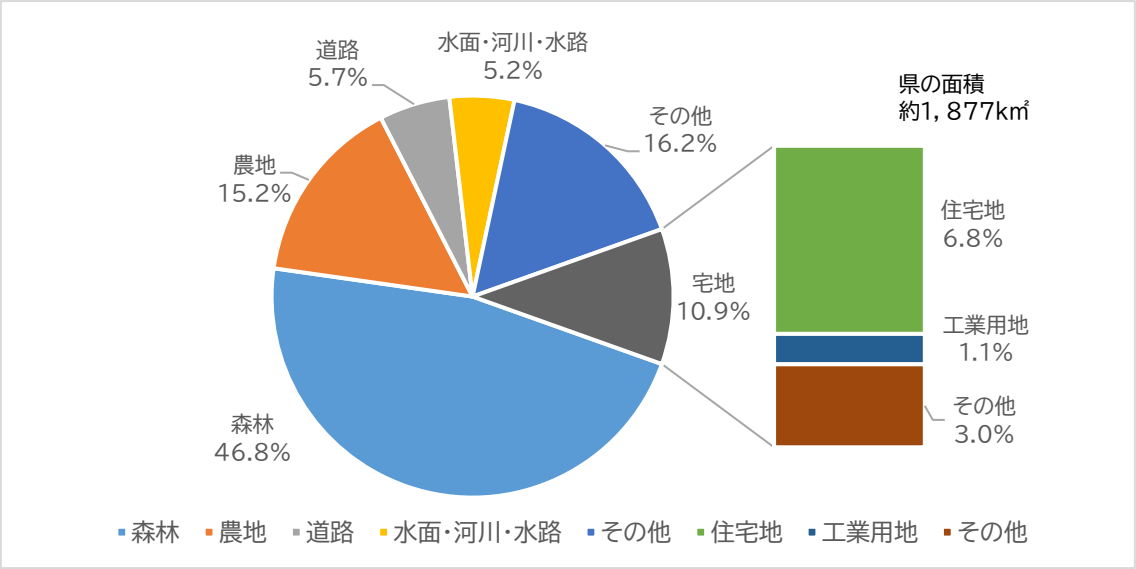
資料：気象庁「各種データ・資料(高松)」

図1－2　月別降水量と月別平均気温



資料：気象庁「各種データ・資料(高松)」

図1－3　土地利用の現況(令和5年)



資料：香川県環境政策課

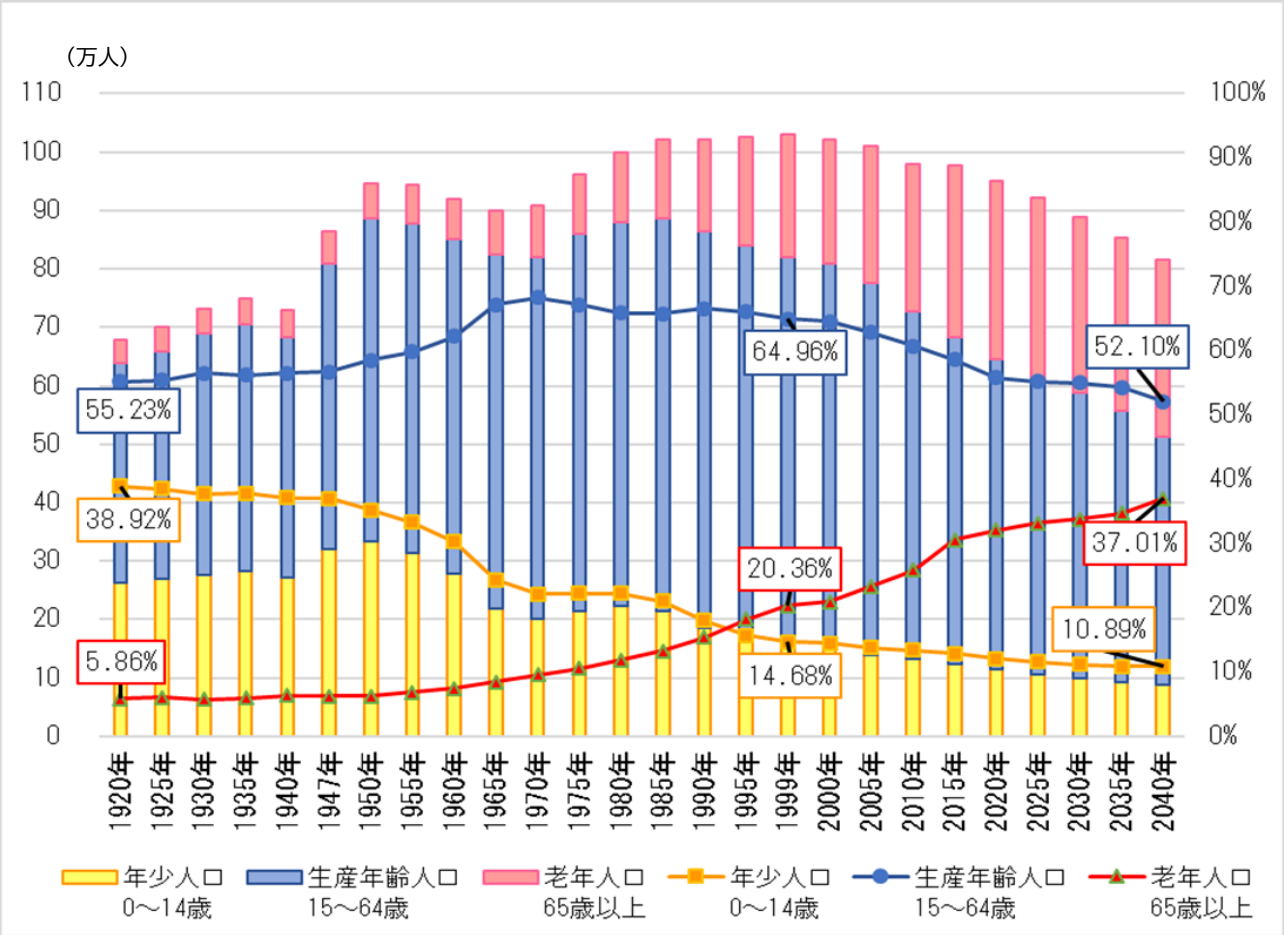
2 人口

本県の人口は、平成11(1999)年の約103万人をピークとして減少に転じ、令和6(2024)年の人口は約92万人と、平成12(2000)年以来25年連続の減少となっており、減少幅が拡大傾向となっています。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、現状のまま何ら対策を講じなければ、今後、人口減少は加速度的に進むことが見込まれ、令和22(2040)年の本県の総人口は81万人程度にまで減少すると推計されています。

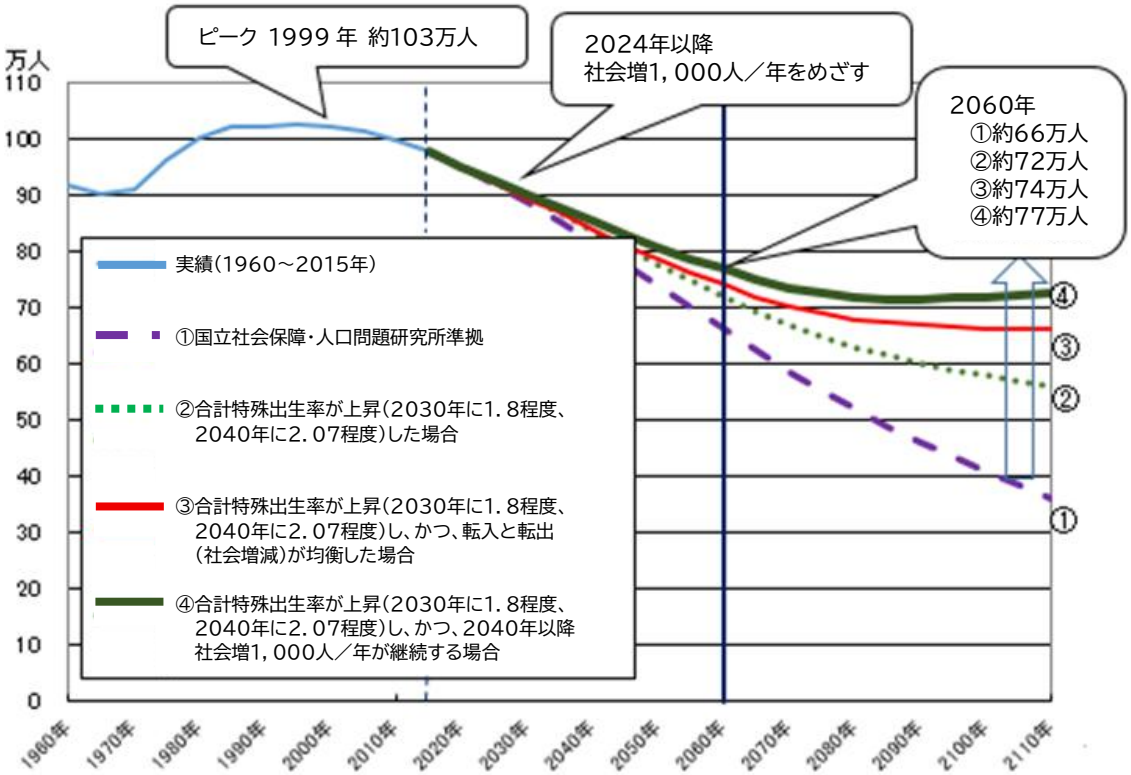
年少人口(0～14歳)と生産年齢人口(15～64歳)は、今後も減少し、令和22(2040)年に年少人口は、9万人を割り込み、生産年齢人口は、42万人程度にまで減少すると予測されています。一方、老年人口(65歳以上)は、平成27(2015)年から令和22(2040)年までの間は、30万人前後で推移すると予測されていますが、「かがわ人口ビジョン」(令和2年3月改訂版)では、令和42(2060)年に人口約77万人を維持するという目標を掲げており、人口減少問題の克服と地域活力の向上をめざし、幅広く人口減少対策を講じています。

図2－1 年齢3区分別人口の推移



資料:総務省統計局「国勢調査」、
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成 30 年3月推計)」

図2－2　人口の長期的見通し



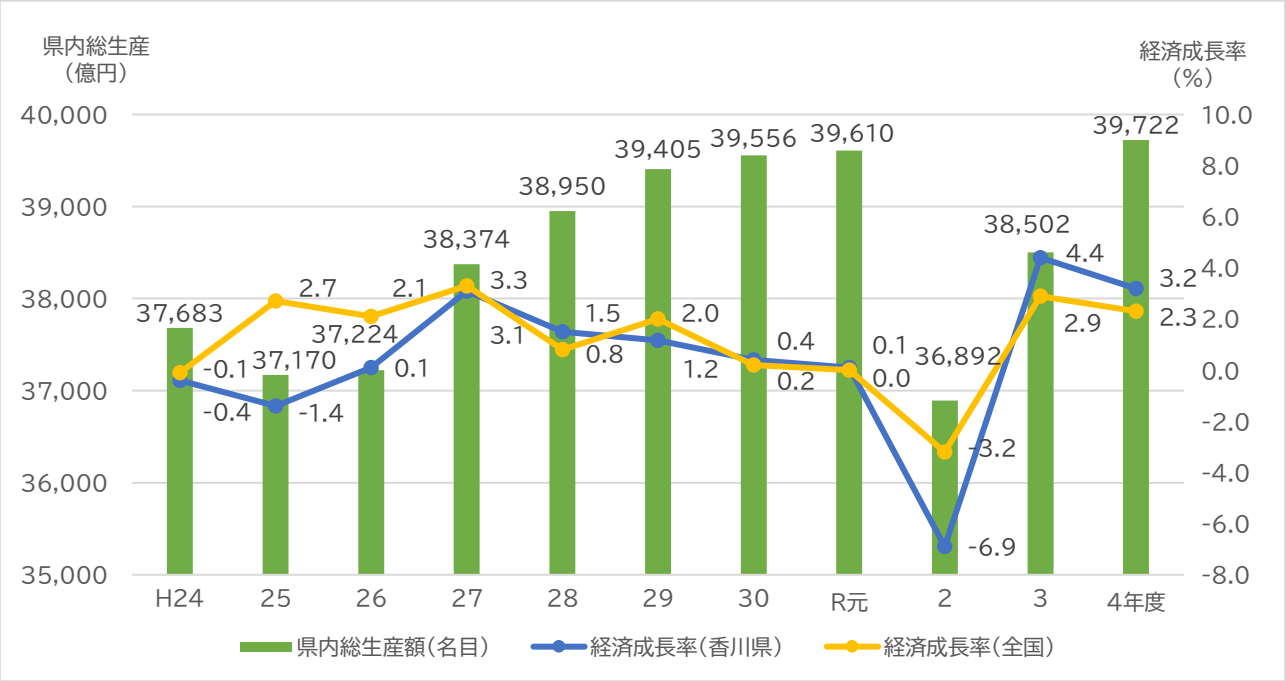
資料：かがわ人口ビジョン（令和2年3月改訂版）

3 経済

本県の令和4(2022)年度の県内総生産(名目)は、3兆9，722億円で、対前年度増加率(経済成長率)は3．2%と2年連続のプラス成長となり、コロナ禍からの社会経済活動の正常化が進む中で、緩やかな持ち直しの動きがみられました。

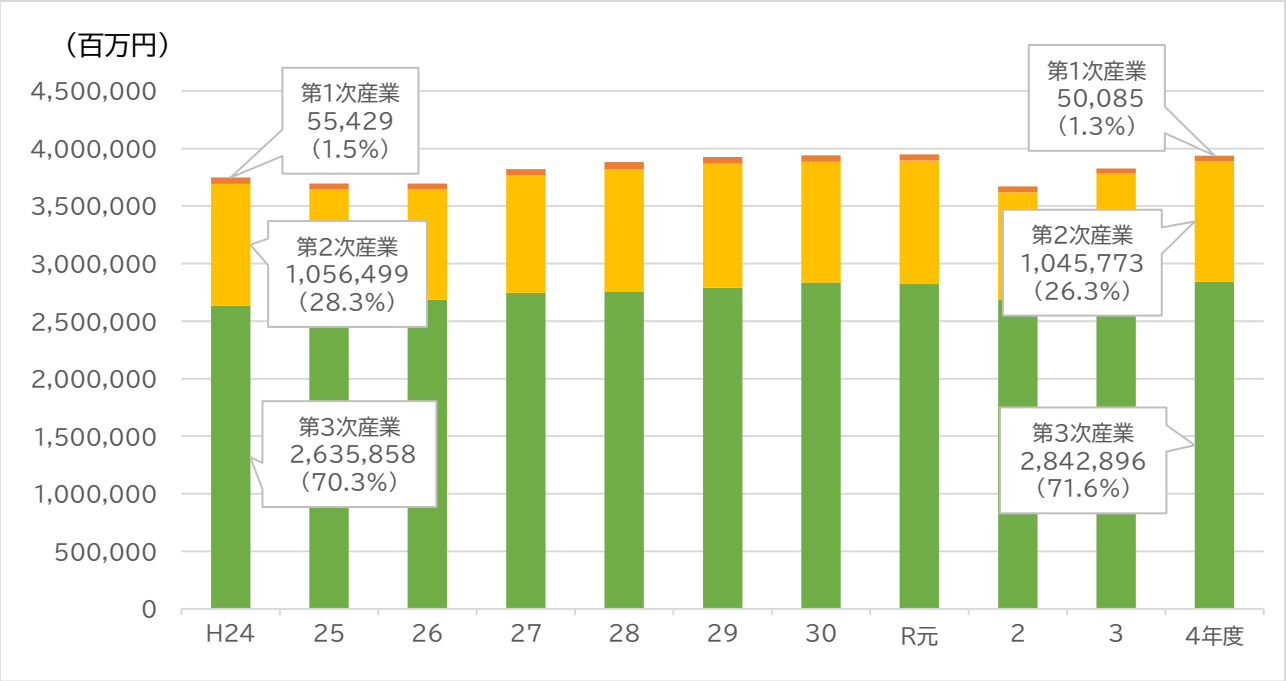
県内総生産を産業別にみると、第1次産業が1．3%、第2次産業が26.3%、第3次産業が71.6%を占めています。

図3－1 県内総生産額と経済成長率(名目)



資料:令和4年度香川県県民経済計算

図3－2 産業別県内総生産(名目)の推移



資料:令和4年度香川県県民経済計算

4 県民の意識

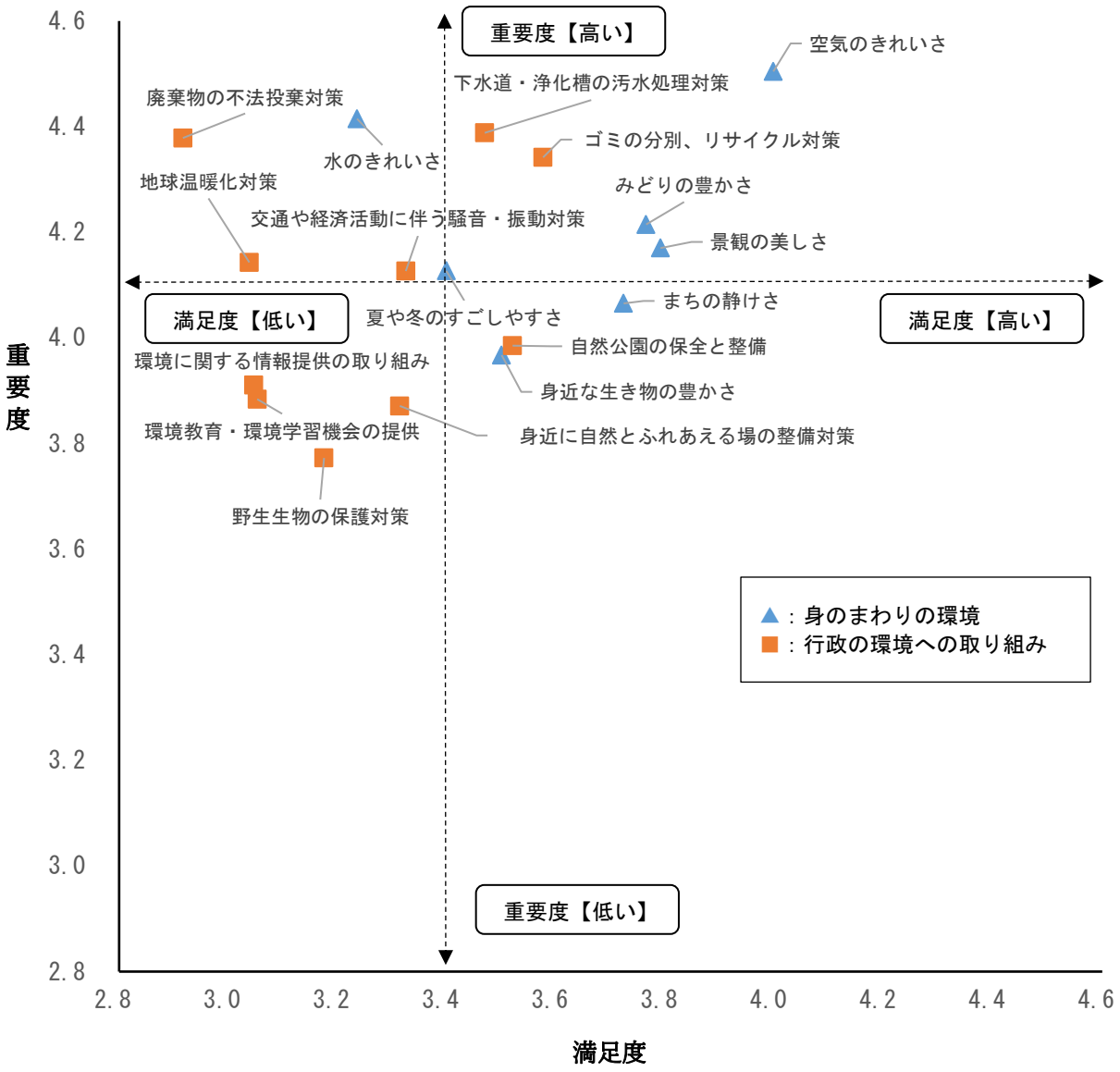
今回の香川県環境基本計画の策定にあたって、県民の環境に対する評価や関心、環境問題に関する考え方及び環境配慮の取組状況などを把握するため、県政世論調査を実施しました。

令和6年度県政世論調査における環境に関する満足度・重要度の結果は次のとおりです。

環境全般に対する県民の満足度の平均は3．4、各項目は2．9～4．0の範囲にあり、「どちらともいえない」と回答した県民が多い状況です。一方、重要度の平均は4．1、各項目は3．8～4．5の範囲にあり、「とても重要である」又は「まあ重要である」と回答した県民が比較的多い状況です。

項目別にみていくと、『空気のきれいさ』や『景観の美しさ』、『みどりの豊かさ』など、『身のまわりの環境』の項目については、比較的満足度が高い傾向になっています。一方、『廃棄物の不法投棄対策』や『地球温暖化対策』、『環境に関する情報提供の取り組み』、『環境教育・環境学習機会の提供』など『行政の環境への取り組み』の項目については、比較的満足度が低い傾向になっています。

図4－1 環境に関する満足度・重要度の散布図



【参考】 平均値の算出について

満足度・重要度のそれぞれの選択肢に得点を配分し、設問ごとに平均値を算出しています。

満足度	重要度	得点配分
とても満足している	とても重要である	5
まあ満足している	まあ重要である	4
どちらともいえない	どちらともいえない	3
やや不満である	あまり重要でない	2
とても不満である	全く重要でない	1

満足度平均値 ＝ 「とても満足」×5＋「まあ満足」×4＋「どちらともいえない」×3＋「やや不満」×2＋「とても不満」 / 『無回答』を除く有効回答者数

重要度平均値 ＝ 「とても重要」×5＋「まあ重要」×4＋「どちらともいえない」×3＋「あまり重要でない」×2＋「全く重要でない」 / 『無回答』を除く有効回答者数